

中学生「職場体験学習」開催報告

吉田 朋弘¹⁾・宮地 良典²⁾

1. はじめに

地質標本館では、茨城県つくば市立手代木中学校・同吾妻中学校・同牛久市立下根中学校の2年生15名を、「職場体験学習」として2008年8月7日(木)に受け入れました。

「進路指導の一環(手代木中)」、「進路学習の一環(吾妻中)」、「総合的な学習の時間(下根中)」を目的に、中学2年生が夏休み期間中に、様々な職場を体験するようです。ちなみに、他の職場では飲食店(女の子ならケーキ屋さん)の体験などが人気のようです。

ここでは、地質標本館で行われた「職場体験学習」の様態を報告します。

2. 今までではどんな事を?(履歴)

2008年6月9日に、手代木中学校の先生から「職場体験学習」として生徒10名ほど受け入れてほしい旨ご連絡がありました。これまで地質標本館では、「職場体験学習」の生徒を2005年から受け入れていました。

- 2005年8月9日(火):つくば市立筑西中学校3名
館内見学、館内巡回・受付・清掃、イベント関係(ポスター作成)・相談業務体験、鉱物標本類登録業務、岩石の研磨片作成業務
- 2006年8月4日(金):牛久市立下根中学校2名・土浦市立土浦第一中学校1名
館内清掃・標本登録業務・薄片製作業務・地質相談業務等
- 2006年8月10日(木):つくば市立手代木中学校5名
同上
- 2006年8月25日(金):牛久市立牛久第三中学校

1) 産総研 地質標本館
2) 産総研 地質情報研究部門

2名

イベント補助業務・化石採取体験・館内清掃等

- 2006年10月20日(金):柏市立風早中学校4名
館内清掃・標本登録業務・薄片製作業務・顕微鏡を使った鉱石観察体験
- 2007年8月3日(金):つくば市立吾妻中学校2名・桜川市立岩瀬西中学校2名・つくば市立筑波西中学校1名・牛久市立下根中学校1名
午前:化石レプリカ作り及び来館者(小学生)に対する指導方法の学習
午後:小学生40名に対し化石レプリカ作りの実習

3. さて、何を体験させようか(企画立案)

今回初めて企画立案の担当になり、何を体験してもらうか考えました。事務方は、裏方の仕事は出来ても地学専門の対応はできません。地質標本館でも、夏休みは体験イベントが沢山あり研究者の協力を得ております。そこで、事務方メイン(あまり研究者の手を煩わせない方法)で企画しようと思いましたが、とは言え、実際は研究者である共著者の宮地も活躍しました。

成果普及活動(各種イベント)は地質標本館の重要な業務の一つであり、来館者に楽しんでもらい地学に興味をもってもらえるよう努めています。そこで、中学生にも似たような体験をさせようとして「中学生学芸員による地質標本館を楽しもう!」を企画しました。

1日限りの職場体験学習ですので、難しい内容を教えている時間はありません。そこで考えたのが以下の内容です。

【中学生学芸員による地質標本館を楽しもう!】

キーワード:職場体験, 中学生, 地質標本館

- ・受付業務：来館者に当該イベントの紹介や館内の概要を解説。
- ・岩石のいろいろ：いろんな種類の岩石を置いて、その特徴を解説。
- ・エキジョッカー：液状化現象をペットボトルで再現したオモチャ。遊び方の実演・紹介、液状化現象の簡単な解説。
- ・砂変幻：砂を使ったオモチャ箱。その遊び方と解説。
- ・オベリスク：古代エジプト文明の巨大石柱であるオベリスクをどうやって立てたのかを再現したオモチャ。その遊び方と解説。
- ・ピラミッドの門：人間の力では到底動かせない石の扉をどうやって閉めたのかを再現したオモチャ。その遊び方と解説。
- ・ペーパークラフト作り：「飛び出す火山」を来館者に作ってもらう。作成補助。

午前中に各担当のレクチャーを行い、午後の2時間程度にイベントを開催する計画にしました。その後、吾妻中・下根中からも受け入れ要請があり、この企画かつ合同(同日)で開催することをご了承いただき、準備を進めました。

4. 職場体験当日

09:00地質標本館に集合、館長挨拶、館内見学、薄片室見学を経て、午後のイベントに向けたレクチャーを開始しました。一部の生徒は、事前に来館してくれたのでどんな事をやるか説明済みですが、再度一通りレクチャーしました。それを踏まえて、希望を聞き担当割りを行いました。

13:00イベントの開始準備。机や椅子を標本館ロビーに設置しイベントに備え、13:30「中学生学芸員による地質標本館を楽しもう!」開始です。

来館者が来ると、受付担当者が元気に「こんにちは。こちらで受付(本来の標本館受付)をお願いします。今日は、僕たち中学生が地質標本館のオモチャなどを紹介しているので楽しんでいって下さい。」と、言って欲しいのですが、実際は恥ずかしさが先に出てしまうようです。これは、他の担当者も同じで、特に責めているわけではありません。こういう業務を初めて体験して、好き・嫌い、得手・不得手を感じても

らえば良いのです。時間が経過してくると、一人二人場慣れし来館者相手に自分の言葉で解説できる生徒も出てきました。レクチャーが不十分で、若干異なった内容の発言もありましたが、特に注意せず自由に解説させました。

また、来館者がいてもなかなか話しかけない(話しかけられない?)生徒もいましたので、研究者に来館者を装ってもらい敢えてその生徒の前で質問してもらったりもしました。生徒がこの記事を読まないことを願っています。

とは言え、2時間のイベントも無事終了し、片付け・館内清掃のあと、30分程度のディスカッションを行いました。研究者から飲み物の差し入れがあり、コーラやお茶など数種あったのですが、「自由に飲んで良いよ」って言うと真っ先にコーラが無くなりました。イベントでは消極的な生徒が、ここでは真っ先且つ積極的に飲んでいたので印象的でした。

5. 最後に

「職場体験学習」開催の様様をいろいろと書きましたが、「さて、自分が中学生の頃は・・・」と考えると、勉強もせず部活ばかりの毎日で、自ら将来のことを考えたり、そういう機会を与えられたりすることは無かったように思えます。

筑波研究学園都市は、公的・民間研究機関が集まる他では余り見る事の出来ない場所です。常設展示施設を持っている機関や一般公開の開催によって、身近に「科学」を感じることが出来ます。つくば市などが主催する「つくば科学フェスティバル」などでは、中学校がブース出展し研究機関のブースに肩を並べます。中学生が会場の中を「○○作りませんか。今ならすぐに出来ますよ。」と大きな声で宣伝するのを見ていると将来が楽しみです。

今回、記録(写真)するのを失念してしまい、文字だけの報告になってしまったことが残念ですが、地質標本館では、「職場体験学習」について、人数・日程など希望を全て適えるのは困難でも、可能な限り協力できたら幸いと考えております。

YOSHIDA Tomohiro and MIYACHI Yoshinori (2009) : Office experience by junior high school student.

<受付:2008年11月17日>